

## 【家庭教育支援チーム】

チーム名 (呼称)	大崎市家庭教育支援チーム (呼称:チームおおさき)
活動開始年度	平成 29 年度
活動拠点	大崎市内社会教育施設
活動範囲	大崎市内全域
活動財源	<input type="checkbox"/> 文部科学省補助事業(地域における家庭教育支援総合推進事業) <input type="checkbox"/> 文部科学省委託事業(先駆的家庭教育支援推進事業) <input type="checkbox"/> 厚生労働省事業(事業名 ) <input type="checkbox"/> 地方単独事業として実施 <input type="checkbox"/> 特段の予算措置はないが、自主的に活動を実施 <input checked="" type="checkbox"/> その他の支援により活動を実施 (仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援による復興支援事業補助金)
組織体制	<u>14 人</u> 子育てサポーター 13人, 元行政職員 1名
具体的な活動内容	<input checked="" type="checkbox"/> 講座型 <input checked="" type="checkbox"/> 拠点型 <input type="checkbox"/> 訪問型 <input type="checkbox"/> 総合型 <input type="checkbox"/> その他( )  <b>【活動内容】</b> ・教育委員会主催の家庭教育支援事業「親学びサロン」への協力 市内各地域の 0～小学生の子を持つ保護者を対象とした「親学びサロン」の講師及び託児の協力。 ・県主催・親の学びのプログラム「親のみちしるべ」への協力 保育園・幼稚園・小学校等の保護者を対象にした参加型学習会の支援・協力。 ・チーム研修会の開催 現在の子育て家庭における状況や環境の変化や、親と子のかかわり方など講師を招き、研修会を実施。チーム員スキルアップ&モチベーションアップをはかる。 さらに今後、どのような活動を目指していきたいか、未来デザインのワークショップを行った。
活動の成果	・事業開催時、託児を設けたことにより、参加者が講座に集中でき、リフレッシュにもつながった。託児に対して不安な保護者もいたが、チーム員から託児中の様子を聞き、家庭とは違った子供の一面(成長)を知ることができた。 ・チーム員が研修会を通し、スキルアップにつながったと同時に、相互理解が深まった。

<b>活動において苦労した点や課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動場所が確保できず、その都度、会場を予約し活動を続けてきた。活動拠点については、チーム員や行政と相談しながら検討していきたい。</li> <li>・チームができたばかりということから、その都度、活動方針を確認しながら活動してきた。支援者の自己満足で終わらないように、今後も反省を踏まえて、次につながる活動としていきたい。</li> </ul>
<b>今後の活動目標</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在は、チームができたばかりで市主催事業への協力等がほとんどだが、今後はチームで何ができるか検討し、今後の活動につなげていきたい。</li> <li>・家庭教育支援チームの活動を市民の皆さんに知っていただくことと、チーム員の募集。</li> </ul>
<b>問合せ先</b>	<p>(部署名)大崎市教育委員会 生涯学習課</p> <p>(TEL)0229-72-5035 (E-mail)ed-shogaku@city.osaki.miyagi.jp</p>